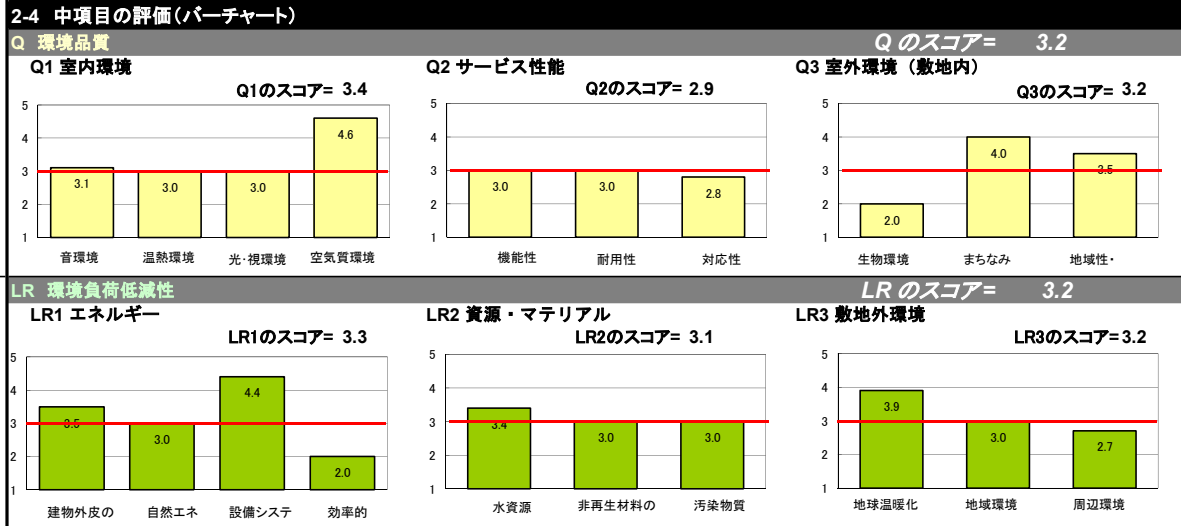
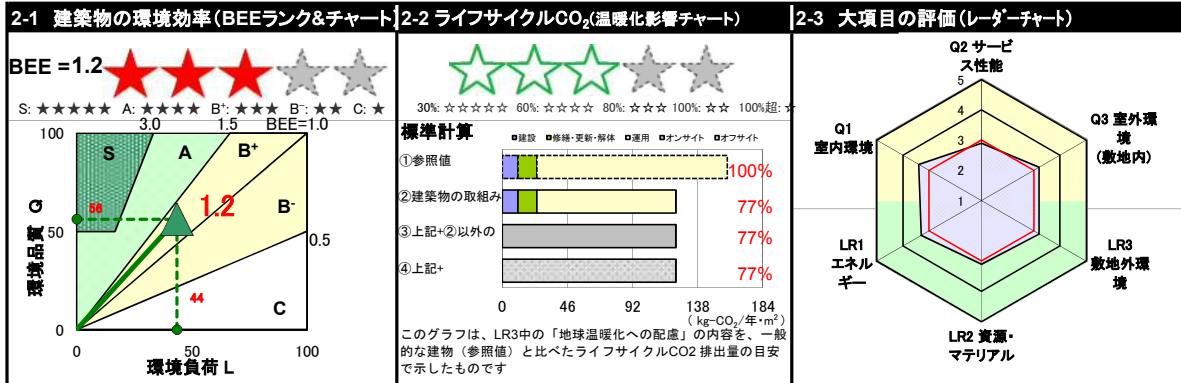


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	東岡崎駅周辺地区整備北東街区有		階数	地上9F
建設地	愛知県岡崎市上明大寺町2丁目14番		構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域		平均居住人員	180 人
気候区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月	予定	評価の実施日	2017年11月30日
敷地面積	1,018 m ²		作成者	萩原義久
建築面積	665 m ²		確認日	2017年11月30日
延床面積	3,713 m ²		確認者	萩原義久



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">29.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部全体・共用部除く・宿泊部 住居・宿泊部分						全体		
配座項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
	重点項目					評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質												3.2
Q1 室内環境												3.4
1 音環境												3.1
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												3.0
1 開口部遮音性能												3.0
2 界壁遮音性能												3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0
1.3 吸音												3.0
2 温熱環境												3.0
2.1 室温制御												3.0
1 室温												3.0
2 外皮性能												3.0
3 ソーン別制御性												3.0
2.2 湿度制御												3.0
2.3 空調方式												3.0
3 光・視環境												2.8
3.1 昼光利用												4.2
1 昼光率												5.0
2 方位別開口												3.0
3 昼光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												3.0
1 昼光制御												3.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												1.0
4 空気環境												4.7
4.1 発生源対策												5.0
1 化学汚染物質												5.0
4.2 換気												4.0
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												5.0
3 取り入れ外気への配慮												5.0
4.3 運用管理												5.0
1 CO ₂ の監視												-
2 喫煙の制御												5.0
Q2 サービス性能												2.9
1 機能性												3.0
1.1 機能性・使いやすさ												3.0
1 広さ・収納性												3.0
2 高度情報通信設備対応												3.0
3 バリアフリー計画												3.0
1.2 心理性・快適性												4.0
1 広さ感・景観(天井高)												4.0
2 リフレッシュスペース												4.0
3 内装計画												4.0
1.3 維持管理												3.0
1 維持管理に配慮した設計												3.0
2 維持管理用機能の確保												3.0
2 耐用性・信頼性												3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0
2 免震・制震・制振性能												3.0
2.2 部品・部材の耐用年数												3.3
1 躯体材料の耐用年数												3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔												3.0
2.4 信頼性												2.6
1 空調・換気設備												3.0
2 給排水・衛生設備												2.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												2.0

3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	2.2	2.2	-	0.50
1 階高のゆとり				-	-	-	1.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 共用部:0.32 専用部:0.26	-	-	-	4.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり				-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性	②			3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		タイルカーペットにリサイクル材料を使用	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			設計段階で建物利用者が参加している施設計画とする	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		回廊を設けた建築的工夫、防犯カメラの設置による施設利用者への	4.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.93	3.5	0.30	-	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.73	4.4	0.30	-	-	-	4.4
4 効率的運用				2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、省水型機器での計画	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		タイルカーペット、ブロックにリサイクル材を使用	4.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			3.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤やガラス用シーリング剤に有害物質を含まないものを使用	4.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68	-	-	-	-
1 消火剤				2.0	0.33	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して77%の計画	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していないため、大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		適切な量の駐車スペースを確保し、管理用や荷捌き用のスペースも	4.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音	独自			3.0	0.50	-	-	-	-
2 振動	独自			3.0	0.50	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	-	-
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

東岡崎駅周辺地区整備北東街区有効活用事業 ホテル棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:29.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 東岡崎駅周辺地区整備北

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 来訪者を東岡崎駅から乙川リバーサイドエリアへ導くウェルカムゲートとしてランドマーク性の創出を図ります。 特にホテル棟は乙川沿いの恵まれた景観を損なわぬ様、敷地中央に配置し緩やかなシルエットとなる様、周辺との調和に配慮しています。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音性能D-50にて計画。 空気質環境では、建築基準法規制対象外となる材料F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用。 給排気を明確に分離し、ビル全体を禁煙とし計画。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 客室の天井高さ2.5mで計画し、コンセプト、イメージ、機能の明確化とした計画としている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 タイルカーペットにリサイクル材を使用。 建物利用者と定期的に打ち合わせを行い、防犯に配慮した計画としている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外皮の熱負荷抑制 BPI_m=0.93 設備システムの高効率化 BEI_m=0.73</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省水型機器などを計画し、汚染部室含有材料の使用回避では、有害物質を含まない材料を使用する計画。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地域環境へ配慮した計画とし、大気汚染防止のため燃焼機器は使用していません。適切な量の駐車スペースや台数を確保、管理用や荷捌き用のスペースを確保、交通負荷制御に配慮。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>